

モスクワにおける Non/fiction 図書展への作家招へい及び
日本関連書籍ブース運営（説明書 2（3））の実施に関する参考情報

Non/fiction 図書展における作家招へい及び日本関連書籍ブース出展の実施に際し、主に以下のような条件を確保することが期待されます。

- 作家・執筆家には居住地から秘書等 1 名の同行者随行が可能。招へい作家のフライトは必要に応じビジネスクラスを使用することも可（同行者はエコノミークラスで計上すること）。
- 図書展の枠内で適当な対談会をアレンジする（対談相手はロシア人とすることが望ましい）。
- 読者交流会（市内図書館）、日本専攻学生との交流会（当地大学）及び一般向け講演会（国際交流基金モスクワ事務所等）については、会場借料・機材借料等がかからない会場を使用すること（通訳、移動手段等の手配は必要）。
- 全ての行事について入場料は徴収しない。
- 全行程において日本語・ロシア語のアテンド・ガイドが随行し、講演会や対談時には日露会議通訳が可能な水準の通訳を手配する。
- 作家への謝礼（滞在期間全イベントの合計額）については、本招へいが「ロシアにおける日本年」の行事の一つであるという公的性格を持つことを説明の上、適当額を①読者交流会、②大学における日本専攻授業への参加及び一般向け講演会、③図書展中央スペースにおける対談会それぞれにつき計上すること。
- 図書展の公式パンフレット等、配布資料への特別露出も含めた行事事前広報のほか、電子版を含む活字メディアに対する働きかけを行い、これまで日本作家に関心を有していなかった新規層の取り込みも意識した広報を行う。

以上